

人間情報コミュニケーションの研究開発（株式会社国際電気通信基礎技術研究所）平成15年度中間評価結果

整理番号	評価	所見	再評価	再所見
13 - 05	A	<p>基礎的研究分野において非常に優れた成果をあげている。活発でレベルの高い研究開発が展開されていることは、成果発表の状況からも理解できる。全体に実用化開発への展開も配慮されている。音声言語コミュニケーションのサブテーマに関して、個人性の生成要因に関する新しい発見と話者認識への応用は独自性が高い。コミュニケーション計算神経については、非常に高い水準の研究成果を得ており、また応用の視点も持っている。</p> <p>事業化は、シミュレーション、外国語学習、ロボット、画像表示等それぞれ異なる分野で計画している。受託企業内では、技術リエゾンセンターを始めとした支援体制が整っており、また、特にネットワークシミュレータ事業への社内の注力度は高い。それぞれのテーマ毎に個別の事業化プロセスが設定されており、事業化体制については、概ね妥当である。事業化としては、多くの商品・サービスに分散しており、ポートフォリオ的な視点からリスク分散が図られている。なお、ネットワークシミュレータは、事業化に不確実性は伴うものも、軌道に乗った場合は高い収益性が期待できる。</p>		